

経営比較分析表（令和5年度決算）

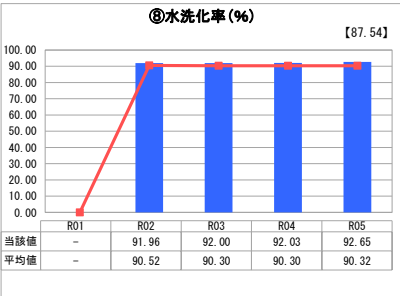
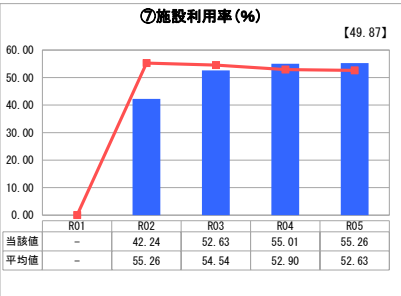
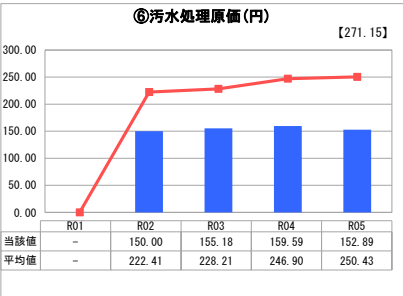
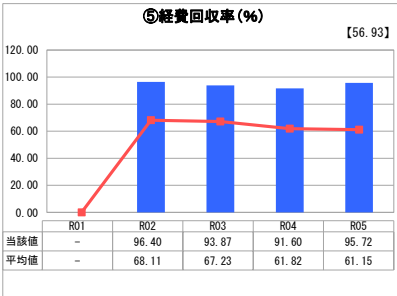
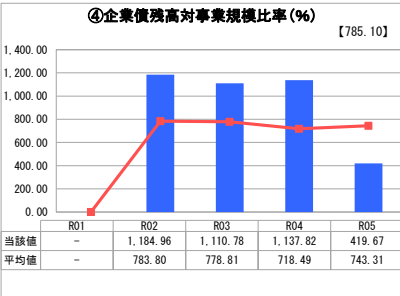
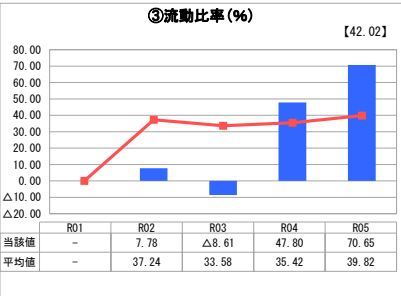
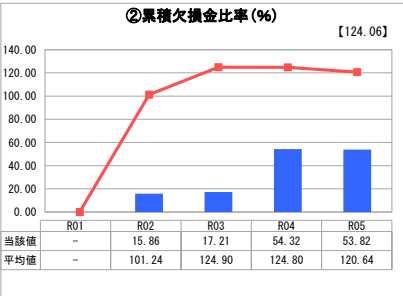
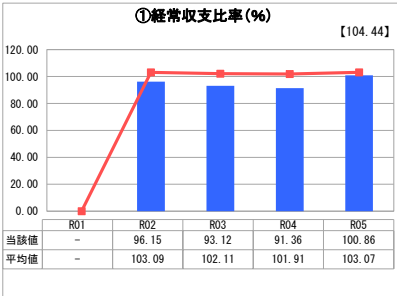
福島県 南相馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	74.03	5.47	85.94	3,107

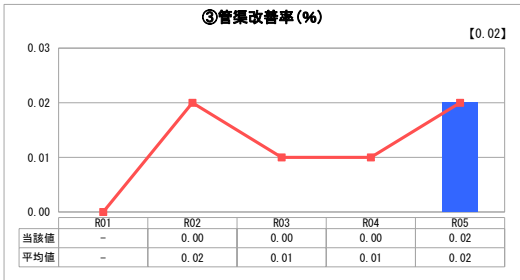
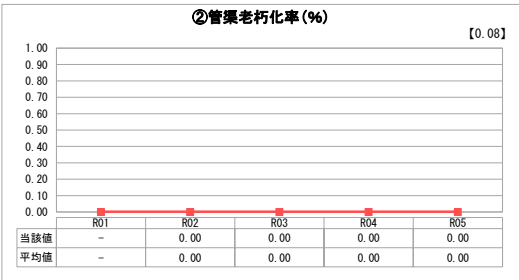
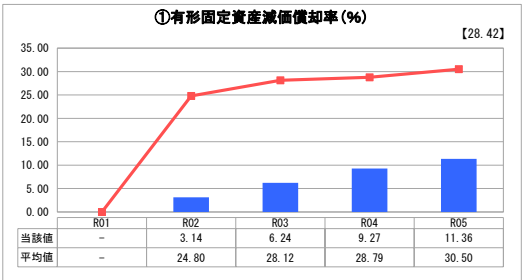
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
56,618	398.58	142.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,076	5.89	522.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和5年度については、類似団体平均をわずかに下回るものの、経常収支比率が100%を上回る結果となった。

使用料収入については、公共や特環と比べて横ばいまたは微減傾向にあるが、物価高騰・エネルギー価格高騰の影響により維持管理費が増加していることから、今後の推移を注視していく必要がある。

②累積欠損金比率
公営企業会計を適用してから間もないことから、類似団体平均よりも低い水準となっている。令和5年度に純利益を計上したことから、前年比で微減となっている。

③流動比率
令和5年度は前年度に比べて大きく上昇し、類似団体平均を上回る結果となった。主な要因は、建設改良事業の財源として企業債の借入を行っていることで、短期的な債務に対する支払能力を確保していることによるものである。

⑤⑥経費回収率、汚水処理原価
経費回収率は90%台を維持しており、令和5年度については95%を上回る結果となった。これは、使用料単価が前年度を上回った一方で汚水処理原価が前年度を下回ったことによるものである。しかし、本市の農業集落排水事業における使用料単価は150円/mを下回っていることから、適正な使用料水準を確保していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
本市の農業集落排水事業全体としてみると、供用開始から比較的年数が経過していないことから、類似団体平均よりも大幅に低い水準となっている。

しかし、公営企業会計を適用した令和2年度から毎年約3%ずつ上昇しており、今後計画的な施設更新等を行っていく必要がある。

②③管渠老朽化率、管渠改善率
管渠については法定耐用年数を超えるものがないため0%となっている。令和5年度については管渠の修繕を実施しており、管渠改善率が伸びている状況である。

全体総括

本市の農業集落排水事業については、処理区域内の人口減少に伴い、将来的な水洗化人口の増加が期待できないことから、使用料収入は横ばい又は減少に転じていくと見込んでいる。

また、今般の物価高騰及びエネルギー価格高騰等の影響により、維持管理費が増加している状況である。

以上から、今後処理施設の統合や公共下水道への接続など、維持管理費削減に有効な対策を検討し、効率的な事業運営を行っていく必要がある。これらの状況の変化を踏まえ、本市の下水道事業をより安定的に運営できるよう経営の更なる健全化に取り組むため、令和6年度については、下水道事業経営戦略の改定作業を進めている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。